

様式 8

令和 8 年 2 月 27 日

株式会社博報堂 様

特別委員氏名

河野 卓也

委嘱業務完了および実績報告書

資源エネルギー庁「令和 7 年度エネルギー需給構造高度化対策調査等事業（エネルギー教育推進事業）地域におけるエネルギー教育実践事業」における令和 7 年 6 月 13 日に委嘱された内容について、委嘱業務の完了と実績を以下の通りご報告いたします。

・委嘱概要

特別委員氏名	河野 卓也
委嘱期間	令和 7 年 6 月 13 日～令和 8 年 2 月 28 日
実践タイトル	「滋賀県下中学校での技術分野におけるエネルギー教育の実践・普及」

・実施事項

・滋賀県中学校教育研究会技術・家庭科部会本部役員会・推進委員会で本事業の説明(6月)	
・大津市教育研究会中学校技術・家庭部会 全体会で本事業の説明(7月)	
・滋賀県中学校教育研究会技術・家庭科部会、大津市教育研究会中学校技術・家庭部会共同でのエネルギー教育研修会を実施(8月) 会場 大津市立仰木中学校 講演 兵庫教育大学 山本 照久 氏 講演 仰木中学校 河野 卓也	
・滋賀県中学校教育研究会技術・家庭科部会推進委員会で進捗を報告(9月)	
・県内各中学校技術・家庭科技術分野で実践授業を開始(9月～)	
滋賀大学教育学部附属中学校	「エネルギーを視点に農業の今後を考えよう」
大津市立瀬田北中学校	「電力の生産と供給について考えよう」
大津市立日吉中学校	「エネルギーミックスについて考えよう」
近江八幡市立安土中学校	「発電方法を5つの視点で調べよう」

近江八幡市立八幡中学校	「電気エネルギーへの変換」
東近江市立聖徳中学校	「さまざまな発電方法 ～班電力ゲーム～」
長浜市立北中学校	「エネルギーミックスについて考えよう」
大津市立仰木中学校	「エネルギーの利用」

- ・関西エネルギー教育ワークショップへの2名の協力者が参加（11月）
滋賀大学教育学部附属中学校 教諭
滋賀県中学校教育研究会技術・家庭科部会 事務局長 島田 拓哉
大津市立仰木中学校 教諭 光橋 正人
- ・滋賀大学教育学部附属中学校 教科横断的なエネルギー教育授業（1月～）
科学技術の時間「地域のエネルギープロジェクト」
- ・大津市立仰木中学校 技術・家庭科技術分野を中心とした教科横断的なエネルギー教育授業の実施（2月中旬～）
社会・技術分野・総合的な学習の時間での授業 「灯りの歴史とエネルギー」
- ・滋賀県中学校教育研究会技術・家庭科部会推進委員会で実践内容を報告し、次年度の進め方について協議（2月27日）
- ・同部会の広報誌で実践事例を報告（令和8年度）

・成果

滋賀県下の中学校では、環境に関わる教育は琵琶湖などの水環境に関わるものが多く、エネルギー教育の実践は少ない状況であった。技術分野についても、エネルギーと生活・社会の関わりについて考えさせる教育の取り組みは少なく、充実していない状況にあった。また、技術分野の担当教員は各学校に1名であることが多く校内で研修を進めることが難しい環境にあり、優れた授業実践が広がることに時間を要する傾向があった。エネルギーに関連する内容が多い教科でありながら、エネルギーと生活・社会の関わりについての実践を行う教員は少なく、教科横断的なエネルギー教育の取り組みの中核となるべき教科として実践を進めるためのきっかけづくりが必要であった。

滋賀県中学校教育研究会技術・家庭部会は県下の技術分野教員のほとんどが参加しており、実践研究の内容を広く伝えるためには適した研究部会である。また、大津市の研究部会も共同して研究を進めることができ、技術分野教員がエネルギー教育への意識を持つことができた。

また、夏季休業中の研修会では、教科の枠を超えたエネルギー教育の概要についての研修を行ったことにより、エネルギー教育に置ける技術分野の役割が明確となった。

本年度は滋賀大附属中学校や大津市内の中学校などの複数校で授業実践を行うことができた。しかし、本年度から取り組みを始めた学校が多く、年度当初に確立した授業計画に新たな内容を追加する必要があるため、授業の計画・準備に時間がかかり、実践成果のまとめや共有を年度内に行うことが十分にはできていない。次年度以降、滋賀県中学校教育研究会技術・家庭部会の場で県下の情報共有を図っていきたい。

大津市立仰木中学校では、技術分野を中心とした教科横断的なエネルギー教育を計画しており、社会と技術分野での授業実践を2月中旬から実践した。技術分野が校内の教科横断的な授業や、STEAM教育の実践の中核となり、校内の実践研究を進めていく礎を作ることができた。次年度以降、学校全体としてエネルギー教育に取り組んでいく機運を高めることができ、実践計画の作成にかかっている。

学校や地域を単位とせず、教科の研究組織によって研究を進めたため、教科の役割を明確にするとともに、県下の教科担当者の意識を高めることができたことが最大の成果である。

・ 今後への課題

県下の技術分野の教員の多くは、エネルギー教育の存在と必要性を理解した段階に止まっている。今度、実践を進める学校を増やし、研究会でも授業内容の交流を頻繁に行うようにしていきたい。

滋賀県では、地理的な事情などによって、県内教員が参集しての研究会などを開催しにくい状況であるため、研修の機会を増やすために市町単位の研究会や、オンラインでの研究会の開催を支援する仕組みを作る必要を強く感じる。

各中学校で一人であることが多い技術分野の教員が、他の教科の教員を巻き込みながら、校内のエネルギー教育を推進していく立場となって活躍できるよう、サポートを続けていきたい。